



世界を知る It knows the world.

このページは世界を知るをテーマに「国際協力」については、独立行政法人国際協力機構（JICA）デスク熊本や、国際交流、協力分野で活躍している皆さんのご協力を得て、日本で生活する私たちには日常知ることができない興味深い世界の状況を紹介します。

フィリピンの知られざる文化 織物文化

Girls, be Ambitious 代表 やまだ まき
山田 麻樹さん

東南アジアの国の1つフィリピン。福岡空港からフィリピンの首都マニラ空港までは飛行機で3時間半と近く、毎年35万人以上の日本人がフィリピンを訪れています。フィリピンと言われ思いつくのは、“バナナ” “海” “リゾート” というイメージで、あまりフィリピンの文化に関するイメージはないかと思います。

フィリピンは1565～1898年までスペインの植民地であり、その後1898年～1946年までアメリカの植民地であった為、フィリピンの大部分の場所では、スペイン文化をベースとした文化発展をしており、近代はアメリカ文化＝フィリピンの大衆文化となっています。しかし、実はフィリピンには7,108もの島があり、言葉も100程の現地語あると言われ、多様な文化が共存しています。一般的に伝統文化に乏しいと言われるフィリピンでもその地域特有の文化を持っている地域があります。今回はそんな独自の文化を持つ地域を、“織物”を切り口にして、2地域紹介したいと思います。

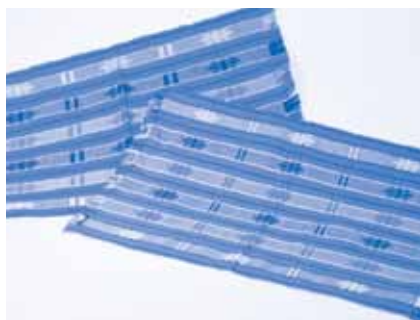
バギオ織り（バギオ市）

バギオ市は首都マニラからバスで5～7時間程、ルソン島を北上した所にある市です。常夏のフィピンとは思えない程寒く（一番寒い季節で気温が10℃程）、キャベツ等の高原野菜が多く取れ、イチゴの産地としても知られています。この地域には先住民族が代々受け継いできた織物（バギオ織）があり、またバギオ市



バギオ織の様子

周辺にも様々な先住民が作った織物（サガタ織、バナウエ織等）があり、彼らは土着の宗教を信仰しており、赤や緑といった原色をベースに地域ごとに異なる模様の入った生地を織ります。これらの織物は手動の織り機を使っておられるものもありますが、ほとんどは織り機を使わず完全手作業で織られています。



バギオ織のテーブルマット

ヤカン織り（ザンボアンガ州ヤカン村）

フィリピンの最西端に位置する、ミンダナオ島・ザンボアンガ州のヤカン村。この地域は、反政府組織のモロ・イスラム解放戦線（MILF）の活動が盛んな地域でもあり、外国人の誘拐事件が起こる等治安が不安定な地域です。しかし、インドネシアやマレーシアなどのイスラム圏から渡ってきた先住民たちが、独自の文化圏を作っている、非常に多様な文化が入り交じっている地域でもあります。そんな地域にあるヤカン村に住むイスラム教を信仰するヤカン民族は、自分



ヤカン織の様子

たちの生活に関わりの深い動物の模様をあしらった刺繍がはいているのが特徴です。また、インドやタイの生地にも通じるような細かな模様の入ったシルク生地も作っています。彼らもまた織り機を使わず手作業で織っています。



ヤカン織の模様

織物文化の様に、フィリピンにはまだまだ知られていない工芸品、文化が沢山あります。フィリピンはまだあまり身近な国では無いかもかもしれませんが、熊本県にはフィリピン国籍の方が1,058人（平成22年国勢調査結果）住んでおり、中国籍（3,628人）の方に次ぐ2番目に多い外国籍住人がフィリピン人の方なのです。実は身近なフィリピン。この記事をきっかけに少しでもフィリピンを身近に感じ、興味を持ってくれる方が増えると嬉しいです。

山田 麻樹さん プロフィール

熊本県宇城市出身。2008年・2010年まで青年海外協力隊としてフィリピン・セブ島で村落開発普及員として活動。帰国後、Girls, be Ambitiousを立ち上げ、フィリピン産のフェアトレード商品の販売やスタディーツアーの運営等を行う。

HPアドレス <http://www.girls-be-ambitious.com>